



African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学
現代アフリカ地域研究センター

2019（平成31／令和元）年度 活動報告

1 概要

2 活動実績

2.1 研究活動

2.2 教育活動

- a) センター教員による学部・大学院教育への貢献
- b) 招へい研究者による授業
- c) 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」
- d) 学生支援
 - ア) 調査支援
 - イ) シンポジウム・セミナーでの報告機会提供

2.3 シンポジウム・セミナー

- a) PIASS との共同セミナー
- b) TICAD VII 関連イベント
 - ① TICAD VII サイドイベント「西アフリカの持続的発展への課題」（2019年8月27日）
 - ② TICAD VII パートナー事業
 - 1) 「日本のアフリカ研究を総覧する」（2019年7月13日）
 - 2) 南アフリカ・日本大学 (SAJU) フォーラムのフォローアップ・セミナー「Japanese-African University Dialogue on Global Sustainable Development」（2019年8月27日）
- c) 南アフリカ・日本大学 (SAJU) フォーラム（2019年5月23～24日）
- d) ASC セミナー

- e) その他、協力イベント
 - ① Seminar on African Development (2019年8月30日)
 - ② TUFSS-KU セミナー
 - ③ アフリカンウィークス (2019年12月2～20日)
 - ④ 写真展
 - ⑤ TUFSS 特別セミナー (2020年1月23日)

2.4 人的交流

- a) 研究者招へい
- b) 留学生招致活動
 - ア) ガーナ
 - イ) ルワンダ
 - ウ) 南アフリカ

2.5 ネットワーキング

2.6 ウェブサイト、SNS による情報発信

- a) センター公式ウェブサイト
- b) SNS (フェイスブック、ツイッター)
- c) メーリングリスト

2.7 来年度に向けた活動

- a) ガーナ大学との共同セミナー
- b) 第二弾クラウドファンディング・プロジェクト

3 センターの人員構成

4 活動記録

- 4.1 ASC セミナー一覧
- 4.2 主催・協力イベント一覧
- 4.3 主要来訪者一覧

5 センター教員・研究員の業績

5.1 研究活動

- a) 著作 (単著・共著・編著)
- b) 論文
- c) エッセイ、その他
- d) 学会・シンポジウム
- e) 一般向け講演
- f) 企画・運営・事務局等

5.2 教育活動

- a) 本学内における今年度担当授業
- b) 本学以外における非常勤講師活動

5.3 対外活動、社会貢献

- a) 外部機関からの委託業務
- b) マスメディアからの取材、問い合わせへの対応

5.4 外部資金の獲得

- a) 代表者
- b) 分担金

別添

PIASS-TUFS セミナー、ASC セミナー、KU-TUFS セミナー、TICAD 関連イベント、協力イベントチラシ
一覧、SAJU フォーラムプログラム

1 概要

現代アフリカ地域研究センター（以下、センター）設立3年目となる2019年度は、南アフリカ・日本大学（SAJU）フォーラムや第7回アフリカ開発会議（TICAD7）などの開催もあって、イベントの多い1年間であった。これらイベントの開催に際しては、可能な限り研究と結びつけ、大学院生なども巻き込みつつ、研究のアウトプット、あるいはそれに対するインプットとして位置付け実施するよう心掛けた。センターの活動が、本学における研究と教育の好循環を促進するものであるべきだとの考えからである。2019年度は、概ねこの考え方に則ってイベントをこなし、一定の成果を上げることができたと考える。

主要なイベントを振り返ろう。2019年5月には、第4回南アフリカ・日本大学（SAJU）フォーラムがプレトリア大学で開催され、センターが日本側事務局を務めた。SAJUフォーラムは、日本、南アフリカを拠点とする研究者・実務家を中心に200名を超える参加者が集う大規模な会議となった。8月28～30日には第7回アフリカ開発会議（TICAD7）が横浜で開催されたが、それに合わせて複数のパートナー事業やサイドイベントを企画、実施した。7月13日には、京都大学アフリカ地域研究資料センター、上智大学アジア文化研究所、東京大学アフリカ地域研究センターとともに、シンポジウム「日本のアフリカ研究を総覧する」(TICAD7パートナー事業)を開催した。8月27日には、TICAD7パートナー事業の“Japanese – African University Dialogue on Global Sustainable Development”、そしてTICAD7サイドイベントの「西アフリカの持続的発展への課題—人々の生計向上のために」の2つの会議を共催・後援した。

2020年2月にルワンダで開催したプロテスタント人文・社会科学大学(PIASS)との共同セミナー(PIASS – TUFUS Joint Seminar on Development and Resource Management)は、今年度のセンターの活動の集大成とも言えるもので、日本およびアフリカ8か国の研究者がルワンダ南部フェのPIASSに集まる大規模な研究集会となった。

以上のイベントはいずれも、センター単独ではなく、ひとつないし複数の機関と共同で企画・運営したものであった。その意味で、多くの機関に助けられた活動であったし、イベント開催を通じたネットワーキングの効果もあったと考えている。

こうした比較的大規模なイベントに加えて、今年度もセミナーの企画・開催に力を入れた。ASCセミナーを17回開催したほか、京都大学アフリカ地域研究資料センターとの共同セミナーや、学内でCAAS（アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム）ユニット教員らとのセミナーを開催した。

アフリカからの研究者、留学生の招へい事業は、今年度も積極的に実施した。春学期1名（ザンビア大学）、秋学期2名（ガーナ大学、アディスアベバ大学）の研究者を招へいし、学部と大学院で授業を担当してもらった。また、TICAD7サイドイベントのために短期招へいした研究者（ガーナ大学）には、本学でのセミナーで講演などをお願いした。留学生に関しては、昨年度に実施したクラウドファンディングの資金を利用してPIASS（ルワンダ）から2名を、また例年通りトヨタガーナ社の支援を得てガーナ大学から2名を、さらに、矢崎総業株式会社の寄付金を活用して南アフリカのプレトリア大学から1名を招致することができた。アフリカ研究者やアフリカ人留学生の招致は、本学学生への教育効果が高いことを実感しており、今後も充実させていきたい。

研究と教育の好循環という目標に照らして、大学院生の役割は決定的に重要である。今年度は、本学大学院総合国際学研究所博士課程に在籍する学生を積極的にセンターのイベントに巻き込んだ。昨年度に

調査費を支援した学生3名については、6月28日のASCセミナーで研究報告をさせ、またセンターの刊行物 Working Paper Series 2019 にも寄稿してもらった。この3名には今年度も調査費を支援したほか、1名にはルワンダでの共同セミナーでも報告機会を与えた。彼らの研究水準が向上すれば、センターにとって、また日本のアフリカ研究全体にとっても大きな意味を持つ。

セミナー等のイベント開催だけでなく、センターの活動については、公式ウェブサイトや SNS を利用して詳細な情報発信を行った。同様に、センター設立以来継続しているアフリカ短信情報（「今日のアフリカ」）も継続して発信した。これにより、フェイスブックやツイッターのフォロワーは順調に増加している。

2 活動実績

2.1 研究活動

現代アフリカ地域研究センター・センター教員の2020年度活動実績は、下記5.1.に示すとおりである。なお、センターの刊行物として、Yasuo Matsunami and Shinichi Takeuchi eds. *Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa* (ASC-TUFS Working Papers 2019). Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, 2020.を出版した。

2.2 教育活動

現代アフリカ地域研究センターは、本学国際社会学部、大学院総合国際学研究科、共同サステイナビリティ研究専攻で行う通常の教育活動（5.2.参照）に加えて、以下の教育活動を提供した。

a) センター教員・研究員による学部・大学院教育への貢献

学部：松波「アフリカ地域研究B（アフリカの宗教：妖術、巡礼、精霊憑依）」（秋学期15コマ）

武内「東京外国語大学とアフリカ地域研究」（歴史の中の日本を知る1：2019年7月3日）

大学院：武内「アフリカから見た東アジア諸国との関係」（Japan Studies 2：2020年1月31日）

b) 招へい研究者による授業

招へい研究者3名による授業を開講した。それぞれの担当科目は以下に示すとおりである。

◆ゴドフリー・ハンプワイエ（Godfrey Hampwaye）

①国際社会学部 春学期

科目名：地域言語A(英語II-2)

題目名：Regional Planning and Development

②総合国際学研究科 春学期

科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17

題目名：Planning for Sustainable Regional Development

◆コジョ・セバスチャン・アマノール (Kojo S. Amanor)

①国際社会学部 秋学期

科目名：地域言語 A(英語II-7)

題目名：Development in Africa

②総合国際学研究科 秋学期

科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18

題目名：Sustainable Development and Global Governance in a Multipolar World - With Special Reference to Governance in Africa.

③総合国際学研究科 共同サステイナビリティ研究専攻

科目名：サステイナビリティ研究基礎 B

講義題目：An Introduction to Social Science Research Methods (For Sustainable Development)

2019年12月21日(土)

◆テシヨメ・イマナ (Teshome Emanu)

①国際社会学部 秋学期

科目名：アフリカ地域研究 B

題目名：Indigenous Knowledge System

②総合国際学研究科 秋学期

科目名：アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18

題目名：Ethnography of Africa

c) 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「イデアス」

日本貿易振興機構アジア経済研究所では、15か国以上のアジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この事業が「イデアス」(IDEAS: IDE Advanced School)であり、20年以上の歴史がある。2018年度から、本センターが本学とアジア経済研究所の間を取り持つ形で、本学学生をイデアスに参加させ、総合国際学研究科で単位認定する試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたイデアス事業に、今年度は2名の大学院生と1名の学部生(先取り履修として受講)が参加した。

d) 学生支援

以下に示すとおり、現代アフリカ地域研究センターでは、本学大学院総合国際学研究科の大学院生に対して現地調査や国際シンポジウム参加への支援を行った。

ア) 調査支援

博士後期課程の学生3名に対し、調査渡航の航空運賃および滞在費の支援を行った。

◆**博士後期課程** アメリカ・マイシャ・シラス・ツンジネ (Amelia Maisha Silas Tunzine)

調査渡航先：モザンビーク共和国

調査期間：2020年2月22日～2020年3月24日

◆博士後期課程 エマニュエル・ビンセント・ネルソン・カロン (Emmanuel Vincent Nelson Kallon)

調査渡航先：シエラレオネ共和国

調査期間：2020年2月26日～2020年3月23日

◆博士後期課程 イアン・カルシガリラ (Ian Karusigarira)

調査渡航先：ウガンダ共和国

調査期間：2020年3月11日～2020年3月25日

イ) シンポジウム・セミナーでの報告機会提供

2019年6月28日 第37回ASCセミナー「PhD Students' Workshop “Political Regime and Societal Responses in Africa”」にて、イアン・カルシガリラ、エマニュエル・ビンセント・ネルソン・カロン、マイシャ・ツンジネの3名が報告。

2019年8月29日 Seminar on African Development にて、エマニュエル・ビンセント・ネルソン・カロン、マイシャ・ツンジネの2名が報告。

2020年2月18日 PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development にて、マイシャ・ツンジネが報告。

2.3 シンポジウム・セミナー (チラシは別添参照)

a) PIASS との共同セミナー

2020年2月18日及び19日、プロテスタント人文・社会科学大学 (PIASS) にて共同セミナー (PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development) を開催した。本セミナーは、当センターとPIASS とが共催した国際学術セミナーであり、日本、ルワンダのみならず、カメルーン、ガーナ、南アフリカ、ザンビア、コンゴ民主共和国、モザンビーク、エチオピアからも発表者が参加し、2日間で合計24の研究報告がなされた (プログラムは別添)。

本セミナーには、本学から武内進一現代アフリカ地域研究センター長の他、センターに所属する3名の講師 (出町一恵、中山裕美、大石高典) と松波康男特任研究員、そして松隈潤副学長、山田総一郎理事が参加した。また、本学大学院総合国際学研究所博士課程在籍のマイシャ・ツンジネ、および日本貿易振興機構アジア経済研究所の網中昭世研究員と佐藤千鶴子研究員が報告者として参加した。本セミナーへの招へい研究者のうち、アフリカの研究機関からの招へい者を以下に示す。

氏名	所属機関	国籍
Sonwa, Denis Jean	Center for International Forestry Research (CIFOR)	カメルーン

Amanor, Kojo Sebastian	University of Ghana	ガーナ
Narh, Peter	University of Ghana	ガーナ
Lurimuah, Tontie Kanton	University of Ghana	ガーナ
Iddrisu, Azindow Yakubu	University of Ghana	ガーナ
Akolgo, Joseph Octavius Abugre	University of Ghana	ガーナ
Ntsbeza, Lungisile	University of Cape Town	南アフリカ
Chitonge, Horman	University of Cape Town	ザンビア
Kabinga, Moonde	University of Cape Town	ザンビア
Mangaza, Lisette Mondo	University of Kisangani	コンゴ民主共和国
Raimundo, Inês Macamo	Eduardo Mondlane University	モザンビーク
Soboka, Teshome Emana	Addis Ababa University	エチオピア

b) TICAD 7 関連イベント

① TICAD 7 サイドイベント「西アフリカの持続的発展への課題」(2019年8月27日)

本セミナーは、東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学が共同で運営する大学院博士課程プログラムである共同サステナビリティ研究専攻と京都精華大学の共催によって開催された。セミナーでは、メインスピーカーとして、ウスビ・サコ (Oussouby Sacko) 京都精華大学学長とゾジ・チカタ (Dzodzi Tshikata) ガーナ大学アフリカ研究所所長が登壇し、マリ及びガーナを中心に西アフリカ地域の持続的発展に向けた方策や課題について論じた。セミナーでは、千年篤東京農工大教授と山本佳世子電気通信大学教授がコメントーターを、武内センター長が司会を務めた。

② TICAD 7 パートナー事業

1) シンポジウム「日本のアフリカ研究を総覧する」(2019年7月13日)

TICAD7の機会に日本におけるアフリカ研究を紹介し、またアフリカ研究者間での情報共有を図ることを目的として、京都大学アフリカ地域研究資料センター、上智大学アジア文化研究所、東京大学アフリカ地域研究センターと協力して開催した。山極壽一京都大学総長の基調講演に続いて、13の大学・研究機関からアフリカ研究の紹介がなされた。その後、研究者、実務者を交えてパネルディスカッションが行われた。開催後、シンポジウムでの議論の取りまとめとして、①分野・セクターを超えたネットワークの構築、および②人材育成、の重要性を強調する共同声明が発出された。

2) SAJU フォーラム・フォローアップ・セミナー「Japanese-African University Dialogue on Global Sustainable Development」(2019年8月27日)

TICAD7に参加するためプレトリア大学のクベ学長が来日する機会をとらえ、5月に開催したSAJUフォーラムのフォローアップとして開催した。アフリカ側からはプレトリア大学の他にザンビア大学や南アフリカの国立研究財団 (National Research Foundation) など、日本側からも本学の林佳世子学長や北海道大学など、複数の大学および研究関係機関が登壇し、SDGs達成に向けた大学の役割について議論した。

c) 南アフリカ・日本大学 (SAJU) フォーラム (2019年5月23-24日)

2017年の開催(於東京)に続いて第4回目となるSAJUフォーラムは、プレトリア大学(南アフリカ)のFuture Africa キャンパスで開催された。日本、南アフリカを拠点とする研究者・実務家を中心に200名を超える参加者が集い、両国間の共同研究の現状と展望等について議論した(プログラムは別添)。両国の大学関係者に加えて、日本側からは文部科学省、日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構、国際協力機構、ジェトロ・アジア経済研究所等の代表者が、南アフリカ側からは、科学技術省、高等教育・訓練省等の代表者が参加した。現代アフリカ地域研究センターは、本フォーラムで日本側事務局を務めた。本学から参加した松隈副学長は、開会挨拶にて、本フォーラムが研究協力のみならずグローバルな諸課題に対処するプラットフォームとして実践的に活用されることへの期待を述べた。また武内センター長は、二日目のセッションにおいて、本学の留学生受入れ制度について説明しつつ、ここ数年で本学に南アフリカ人研究者を続けて招へいしていることなど、同国との研究者交流が進んでいることを説明した。多くの参加者によって研究発表が行われたこのフォーラムはまた、両国の研究者らに新たな共同研究のパートナーとの出会いを提供する機会ともなった。

d) ASC セミナー

現代アフリカ地域研究センターが主催するASCセミナーは、公式ウェブサイトやSNSに加えて当センターの開設したメーリングリスト(後述)を用いて広報している。2019年度は、下記4.1.に示すとおり、計17回のセミナーを開催し、通算で49回の開催に至った。今年度に開催した17回のうち、11回は国際セミナーであった。別添にASCセミナーのチラシを付す。

e) その他、協力イベント

① Seminar on African Development (2019年8月29日)

TICAD7 サイドイベントのために招へいしたゾジ・チカタ教授(ガーナ大学)の協力を得て、本学でセミナーを開催した。セミナーでは、チカタ教授の講演に続いて、本学大学院総合国際学研究所博士課程の大学院生2名が報告し、チカタ教授からコメントをいただいた。

② TUFUS-KU セミナー

2017年度に制度化された京都大学アフリカ地域研究資料センターとの共同主催のセミナー(TUFUS-KU セミナー/KU-TUFUS セミナー)は、2019年度に計3回開催し、通算では12回の開催となった。

③ アフリカンウィークス (2019年12月2日-20日)

本学国際社会学部アフリカ地域専攻の学生が中心となって企画・運営する「アフリカンウィークス」に協力した。

④ 写真展

「アフリカンウィークス」の開催に合わせ、2017年から実施しているTUFUSアフリカ写真コンテスト

に協力した。

⑤TUFS 特別セミナー（2020年1月23日）

大学院国際日本学研究院 CAAS ユニット、現代アフリカ地域研究センター、総合文化研究所の共催で宗教や儀礼、精霊についてのワークショップを開催した。センターの松波康男特任研究員がエチオピアにおける精霊憑依について報告したほか、センター教員の大石高典講師がコメンテーター、武内センター長が司会を務めた。

2.4 人的交流

a) 研究者招へい

◆ゴドフリー・ハンプワイエ(Godfrey Hampwaye)

所属・役職：ザンビア大学自然科学学部地理・環境学科・上級講師

招へい期間：2019年3月28日～2019年7月31日

研究教育活動：

4月25日 第33回ASCセミナーにて報告

“China Zambia Relations: What Went Wrong, When and Why?”

5月20日 第10回KU-TUFSセミナーにて報告

“Significance, and Institutional Support to Urban and Peri-Urban Agriculture in Africa: Evidence from Zambia”

6月17日 APLセミナー（アジア経済研究所）にて報告

“Firm performance in an African environment: The food processing sub-sector in Zambia”

◆テシヨメ・イマナ(Teshome Emana)

所属・役職：アデイスアベバ大学社会科学学部社会人類学科・准教授

招へい期間：2019年9月26日～2020年1月31日

研究教育活動：

11月19日 第12回KU-TUFSセミナーにて報告

“Urban Land Deal, Competing Perceptions, and Actors' Network in the Suburbs of Addis Ababa City, Ethiopia”

11月28日 APLセミナー（アジア経済研究所）にて報告

“Land and Youth Migration in Africa: The Case of Two Districts from the Highlands of Ethiopia”

12月19日 第47回ASCセミナーにて報告

“Land and Youth Migration in Africa: The Case of Two Districts from the Highlands of Ethiopia”

◆コジョ・セバスチャン・アマノール(Kojo Sebastian Amanor)

所属・役職：ガーナ大学アフリカ研究所・教授

招へい期間：2019年9月28日～2020年1月31日

研究教育活動：

- 11月19日 第12回 KU-TUFS セミナーにて報告
“Community, State and Chiefs: Administrative Land Reform and Commodification in Ghana”
- 12月12日 第46回 ASC セミナーにて報告
“Land Administrative Reform and Commercial Agriculture in Ghana”
- 12月21日 大学院総合国際学研究所共同サステイナビリティ研究専攻にて講義
“An Introduction to Social Science Research Methods (For Sustainable Development)”

◆ゾヂ・チカタ (Dzodzi Tsikata)

所属・役職：ガーナ大学アフリカ研究所・所長、教授

招へい期間：2019年8月25日～2019年8月30日

研究教育活動：

- 8月27日 第7回アフリカ開発会議（TICAD VII）サイドイベントにて報告
“Possibilities and challenges for sustainable development in West Africa: Ghana in Focus”
- 8月29日 共同サステイナビリティ研究専攻主催セミナー「Seminar on African Development」にて報告
“Can Agriculture Under Neo-liberalism Deliver Decent Livelihoods and Structural Transformation in Africa”

b) 留学生招致活動

ア) ガーナ

東京外国語大学との間で研究教育交流協定（MOU）を締結しているガーナ大学より、以下2名の留学生を招致した。なお、留学生招致にあたっては、トヨタガーナ社から往復航空券の提供を受けた。

◆クララ・オベン＝アクロフィ (Clara Obeng-Akrofi)

2019年9月24日～2020年1月30日

ガーナ大学学部生（政治学科）。

◆ルース・オフォリ (Ruth Ofori)

2019年9月24日～2020年1月30日

ガーナ大学学部生（歴史学科）。

イ) ルワンダ

2018年度にクラウドファンディングを活用してルワンダにあるプロテスタント人文・社会科学大学（PIASS）から留学生を招致することを試み、留学生を2名招致できる100万円を目標として資金調達に努めたところ、125人の支援者から合計約170万円を獲得することができた。当初は留学生2名を招致する予定であったが、目標額の約1.7倍を調達することができたため、2019年度にも以下2名の留学生を招致した。

◆第2次招致者

滞在期間：2019年秋学期～2020年春学期（2019年9月末～2020年7月半ば）留学生名：

◆ヘレン・アリネトゥ・ミカンダ（Hélène Alinethu Mikanda）

国籍はコンゴ民主共和国。PIASS 開発学部平和紛争研究学科。

◆オクタブ・ガヒルウェ・カベラ（Octave Gahirwe Kabera）

国籍はルワンダ。PIASS 開発学部天然資源・環境マネジメント学科。

ウ) 南アフリカ

プレトリア大学から1名の留学生を招致した。なお、招致にあたっては、矢崎総業株式会社からの寄附金を往復航空運賃および生活費補助に充てた。

◆ウェンディ＝ローズ・ゴベンダー（Wendy-Rose Govender）

2019年4月2日～2019年7月18日

プレトリア大学学部生（工学部）。

2.5 ネットワーキング

様々な機会を通じて、ネットワーキングに努力した。主要な機会としては、SAJU フォーラムをはじめとする上記イベントやセミナー（4.1、4.2 参照）、また 4.3 に示す研究者、政府関係者の訪問を挙げることができる。

その他の特筆すべき機会としては、SAJU フォーラム・フォローアップ・セミナーでプレトリア大学のクペ学長が来訪した際、同大学と協力協定を結ぶ日本の大学に声を掛け、林学長を交えて懇談会を開催した。この懇談会には、国際基督教大学、龍谷大学、上智大学、鳴門教育大学から参加者があった。

2.6 ウェブサイト、SNS による情報発信

a) センター公式ウェブサイト (<http://www.tufs.ac.jp/asc/>)

2017年7月の公式ウェブサイト設置以来、閲覧者は着実に増加しており、今年度は通算 92,000 超のページビュー（閲覧されたページの合計数）が確認できた（2020年2月20日現在）。なかでもイベント情報などを掲載する「お知らせ」、アフリカ関連情報の短信ページである「今日のアフリカ」、及びスタッフ紹介ページの閲覧がとりわけ多かった。今年度は、昨年度に引き続き 220 本を超える記事を更新した（内訳は表 1）。

表1 HP記事更新数内訳

2019年度	センターHP（全て記事公開日を基準にカウント）							
公開月	お知らせ	活動記録					今日の アフリカ	現代アフリカ 教育研究基金
		センターの 活動	研究 成果	研究プロ ジェクト	A S C セミナー	招へい研究者・ 留学生		
2019年4月	4		1	1	1	6	10	1
2019年5月	2	6	6	1	1	4	7	1
2019年6月	11	1			2	2	9	1
2019年7月	6	2			1	2	6	2
2019年8月	3	1				2	7	
2019年9月	3		2			3		1
2019年10月	5	3		1	3	8	7	
2019年11月	7	2	2		2	3	13	1
2019年12月	7	1			3	2	9	
2020年1月	2	2	1		1		8	
2020年2月	6	1	1		1		8	
2020年3月*							5	
合計	54	18	12	3	15	32	86	7

* 3月分の集計データは2020年3月15日現在のもの

b) SNS（フェイスブック、ツイッター）

センターに関する最新情報については、フェイスブック及びツイッターといったSNSでも発信している。現在の各フォロワーは、フェイスブック470人、ツイッター490人を超えるなど、昨年度末からそれぞれ200人程度増加している（2020年2月20日現在）。今年度の投稿記事（ツイート）数等の詳細を、表2のとおりまとめた。

表2 SNS更新数内訳

2019年度	ツイッター			フェイスブック		
公開月	ツイート数	リツイート	いいね！	記事投稿数	いいね！	フォロワー
4月	14	7	22	20	9	12
5月	9	33	59	28	29	31
6月	10	18	48	20	27	33
7月	10	22	46	16	24	27
8月	15	18	46	16	19	22
9月	11	15	30	16	11	14
10月	19	23	31	17	12	16
11月	18	37	68	15	16	25

2019年度 公開月	ツイッター			フェイスブック		
	ツイート数	リツイート	いいね!	記事投稿数	いいね!	フォロワー
12月	19	29	53	19	11	13
1月	12	19	31	13	4	7
2月	10	24	41	15	1	1
3月	5	10	22	5	3	3
合計	142	249	488	185	165	203

*3月分の集計データは2020年3月15日現在のもの

c)メーリングリスト

2020年3月5日現在、登録者数は483名におよぶ。登録者は主にセンター関係者が名刺交換をした方々で、研究者や学生だけでなく、官公庁やJICA、JETROなど独立行政法人の職員、一般企業やNGOなど多岐にわたる。主として、ASCセミナー等の広報に利用している。

2.7 来年度に向けた活動

a) ガーナ大学との共同セミナー

2020年9月にガーナ大学アフリカ研究所との共同セミナーを予定している。

b) 第二弾クラウドファンディング・プロジェクト

PIASSから引き続き交換留学生を招致するため、クラウドファンディング第二弾を予定している。

3 センターの人員構成

現代アフリカ地域研究センターのスタッフは次のとおりである（2020年3月1日現在）。

名前	役職/担当
武内進一	センター長
出町一恵	センター教員（専任）
中山裕美	センター教員（専任）
大石高典	センター教員（専任）
深澤秀夫	センター教員（兼担）
石川博樹	センター教員（兼担）
荻谷康太	センター教員（兼担）
箕浦信勝	センター教員（兼担）
中川裕	センター教員（兼担）
坂井真紀子	センター教員（兼担）

名前	役職／担当
椎野若菜	センター教員（兼担）
品川大輔	センター教員（兼担）
桐越仁美	特任研究員
松波康男	特任研究員
井上直美	特別研究員
名井良三	アドバイザー
緑川奈津子	事務局

なお、2人の特任研究員については、2020年4月1日より、桐越仁美が国土舘大学文学部へ、松波康男が明治学院大学社会学部へと異動する。これに伴い、2020年1～2月に後任2名の採用人事を行った。

4 活動記録

4.1 ASC セミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
33	5月20日	ゴドフリー・ハンブワイエ博士（現代アフリカ地域研究センター・客員教授／ザンビア大学自然科学部地理・環境学科・上級講師）	China Zambia Relations: What Went Wrong, When and Why?	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
34	5月29日	澤田洋典特命全権大使（駐アンゴラ日本国大使館）	岐路に立つアンゴラ	多言語多文化共生センター白熱外交官シリーズ講演会を兼ねる
35	6月7日	ポール・ギフォード博士（ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院・名誉教授）	African Religion in Comparison with Western	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
36	6月13日	アイナレム・メゲルサ博士（京都大学・客員准教授／アディスアベバ大学・ジェンダー研究センター・センター長）、コメンテーター：児玉由佳氏（アジア経済研究所・新領域研究センター・ジェンダー・社会開発研究グループ長）	Employment and Empowerment in the Rural Central Ethiopian Context: How does Women's Income Earning Impact on Their Agency?	日本アフリカ学会関東支部例会／第11回TUFS-KUセミナーを兼ねる
37	6月28日	イアン・カルシガリラ、エマニュエル・ピンセント・ネルソン・カロン、マイシャ・ツンジネ（東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士後期課程）	PhD Students' workshop 'Political Regime and Societal Responses in Africa	
38	7月4日	岡田誠司駐南スーダン大使	南スーダン国造りの課題と展望	日本アフリカ学会関東支部例会を兼ねる
39	10月2日	早川 千晶氏（マゴソスクール・代	キベラスラムの日常から～ケニアの	日本アフリカ学会関

回	開催日	講師	題目	備考
		表)	貧民街に学校を作る～	東支部 2019 年度第 7 回例会を兼ねる
40	10 月 10 日	リュック・メベンガ・タンバ教授 (ヤウンデ第一大学教養文学人文科学部人類学科・教授)	Death as the Giver of Prestige in Cameroon: An Ethno-analysis of Contemporary Funerary Rituals in Africa	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 8 回例会 / 第 12 回 TUFSS=KU セミナーを兼ねる
41	10 月 24 日	フォーチュネ・バイセンゲ氏 (プロテスタント人文・社会科学大学開発学部・上級講師)	Gender Aspects of Agrarian Reform in Post Genocide Rwanda: Understanding the Benefits of Land Use Consolidation Program for Women Smallholder Farmers	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 9 回例会を兼ねる
42	10 月 31 日	井上 直美氏 (東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特別研究員)	デジタルエコノミーが実現する包括的で持続可能なビジネスのイノベーションとは?—ウガンダの事例から考える—	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 10 回例会を兼ねる
43	11 月 12 日	岡村 善文氏 (特命全権大使 (アフリカ開発会議<TICAD>担当、国連安保理改革担当、人権担当兼国際平和貢献担当)、政府代表 (平和と安定に関する国際協力担当))	アフリカを読み解く鍵～日本に何が出来るか～	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 11 回例会を兼ねる
44	12 月 2 日	パウロ・マテウス・アントニオ・ウアシェ教授 (国際関係高等研究所<モザンビーク>・学術ディレクター兼教授)	Regional Integration in Southern Africa Development Community: Assessing Mozambique's Geostrategic Location Opportunities	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 12 回例会を兼ねる
45	12 月 5 日	西原 智昭博士 (WCS 国際野生生物保全協会・自然環境保全研究員)	アフリカ・コンゴ盆地におけるブッシュミートとエボラの問題～食文化と森林・野生生物保全との観点から議論する	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 13 回例会を兼ねる
46	12 月 12 日	コジョ・セバスチャン・アマノール教授 (現代アフリカ地域研究センター・客員教授 / ガーナ大学アフリカ研究所・教授)	Land Administrative Reform and Commercial Agriculture in Ghana	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 14 回例会を兼ねる
47	12 月 19 日	テショメ・イマナ博士 (現代アフリカ地域研究センター・客員教授 / アディスアベバ大学社会科学部社会人類学科・准教授)	Land and Youth Migration in Africa: The Case of Two Districts from the Highlands of Ethiopia	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 15 回例会を兼ねる / アフリカンフィークス 2019 共催
48	1 月 22 日	イェン・オラル・ラム・トゥット南スーダン高等教育・科学技術大臣	South Sudan NOW!: Some Thought on Peace in South Sudan of Today and Beyond	
49	2 月 5 日	ニイ・アトー＝オキネ博士 (デラウェア大学開発学部社会環境工学科・教授、筑波大学人工知能科学センター・客員教授)	Infrastructure Development and the Hausa Enclaves (Zongo) in Accra, Ghana	日本アフリカ学会関東支部 2019 年度第 16 回例会を兼ねる

4.2 主催・協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共同主催	4月20日	【第10回 KU-TUFS セミナー／第88回 KUASS セミナー】「Significance, and Institutional Support to Urban and Peri-Urban Agriculture in Africa: Evidence from Zambia」	共同主催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター
共同主催	5月23日-24日	第4回南アフリカ・日本大学 (SAJU) フォーラム	共同主催：プレトリア大学日本研究センター、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターほか
共同主催	6月13日	【第36回 ASC セミナー／第11回 TUFS-KU セミナー】「Employment and Empowerment in the Rural Central Ethiopian Context: How does Women's Income Earning Impact on Their Agency?」	共同主催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター 共催：日本アフリカ学会関東支部
共同主催	7月13日	シンポジウム「日本のアフリカ研究を総覧する」(TICAD7 パートナー事業)	共同主催：京都大学アフリカ地域研究資料センター、上智大学アジア文化研究所、東京大学アフリカ地域研究センター、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
共同主催	8月27日	Japanese - African University Dialogue on Global Sustainable Development (TICAD7 パートナー事業)	共同主催：南アフリカ大学協会、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
後援	8月27日	「西アフリカの持続的発展への課題－人々の生計向上のために」(TICAD7 公式サイドイベント)	主催：共同サステナビリティ研究専攻 (東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学)、京都精華大学
後援	8月29日	Seminar on African Development	主催：共同サステナビリティ研究専攻 (東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学)
共同主催	10月10日	【第40回 ASC セミナー／第12回 TUFS-KU セミナー】「Death as the Giver of Prestige in Cameroon: An Ethno-analysis of Contemporary Funerary Rituals in Africa」	共同主催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター 共催：日本アフリカ学会関東支部
共同主催	11月19日	【第94回 KUASS／第13回 KU-TUFS セミナー】「Consequences of Land Tenure Reform in Africa」	共同主催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター 共催：科学研究費基盤研究 (B)「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」、国際共同研究加速基金「アフリカにおける農村資源管理と国家－ガーナとルワンダの比較研究」
共催	12月13日	African Weeks トークライブ企画「サカキマンゴー親指ピアノ LIVE」	主催：アフリカンウィークス 2019 実行委員会
共同主催	2020年1月23日	Contemporary Spirit(ual) Cults: Revival or Continuity? - An Interdisciplinary Workshop	共同主催：大学院国際日本学研究院 CAAS ユニット、現代アフリカ地域研究センター、総合文化研究所

4.3 主要来訪者一覧

2019年5月13日

アシヤ・ハリトヴァ博士候補生 (ロシア科学アカデミー)

2019年5月29日

澤田洋典駐アンゴラ日本国大使

2019年6月5日	カメルーン PKO センター: EIFORCES (Ecole Internationale des Forces de Sécurité / Internatinal School for Security Forces) 一行
2019年7月5日	毎日新聞社大阪本社社会部 宮川佐知子氏
2019年8月30日	プレトリア大学 クペ学長一行
2019年8月30日	ズールーランド大学 X. ムトセ学長一行
2019年9月3日	中国現代国際関係研究院一行
2019年10月9日	駐日アンゴラ大使館マニエル・ドミンゴス・ノゲイラアンゴラ共和国公使、ヘルダー・J・T・コンゴ領事担当官
2019年10月16日	駐日ボツワナ大使館セジョ・モンツォ公使
2019年10月30日	駐日レソト王国大使館パリ・マセンカネ参事官
2019年11月6日	駐日マダガスカル共和国大使館ゾ・ランドリアンジャフィ臨時代理大使 (公使参事官)、ハリス・ヴェロニク・トゥトゥザフィ文化経済参事官
2019年11月13日	駐日マラウイ大使館ベントレー・ナマサス公使
2019年11月14日	ズールーランド大学 X. ムトセ学長一行
2019年12月4日	駐日ナミビア共和国大使館モーヴェン・M・ルスウェニョ特命全権大使
2019年12月11日	駐日南アフリカ共和国大使館ルラマ・スマッツ・ンゴニャマ大使
2020年1月8日	駐日タンザニア大使館ジョン・F・カンボナ臨時代理大使
2020年1月15日	駐日ジンバブウェ大使館タイタス・メリスワ・ジョナサン・アブーバスツ特命全権大使
2020年1月20日	プレトリア大学 Future Africa Institute, C. ンボウ所長
2020年3月10日	駐日ルワンダ大使ルワムチョ・アーネスト大使
2020年3月11日	セネガル国営テレビ一行
2020年3月17日	日本経済新聞社編集局 天野由輝子氏

5 センター教員・研究員の業績

5.1 研究活動

a) 著作 (単著・共著・編著)

Matsunami, Yasuo and S. Takeuchi (Eds.) 2019. *ASC-TUFS Working Papers 2019: Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa*. Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, iv+321pp.

大石高典・近藤社秋・池田光穂 (編著) 2019. 『犬からみた人類史』, 勉誠出版, 480pp.

松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉 (編) 2019. 『アフリカで学ぶ文化人類学—新刊 民族誌がひらく世界』, 昭和堂, 280pp.

大石高典・服部志帆・戸田美佳子 (訳) 2020. 『アフリカの森の女たち—文化・進化・発達の人類学』 (ボニー・ヒューレット著), 410pp.

澤柿教伸・野中健一・椎野若菜（編）2019. 『フィールドワークの安全対策（FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ9）』, 古今書店.

b) 論文

Demachi, Kazue (2020) “Finance-led growth in Africa: Booms and missing links”. In *ASC-TUFS Working Papers 2019: Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa*. Eds. Y. Matsunami and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp.5–22.

荻谷康太（2019） 「メッカ巡礼にまつわる思想：イスラーム圏の東西の端で」, 永原陽子編『人々がつなぐ世界史（MINERVA世界史叢書④）』（ミネルヴァ書房）, pp.87–112.

Kariya, Kouta (2020) “A Letter from Muḥammad al-Amīn al-Kānemī to a Fulani Muslim Community in Bornu”, *Journal of Asian and African Studies* 99 (forthcoming).

Kirikoshi, Hitomi (2019). “Tree Shape Classification and Land Management by Hausa Farmers in Sahel Region of Southern Niger”. *African Study Monographs Supplementary Issue* 58: 55–67.

Nakagawa, Hiroshi (2019). “Linguistic and music ethnography of Kalahari Khoe”. *Area and Culture Studies* 98: 191–202.

Nakagawa, Hiroshi (2019). “Linguistic Features and Typologies in Languages Commonly Referred to as ‘Khoisan’”. In *The Cambridge Handbook of African Linguistics*. Ed. H. Ekkehard Wolff, Cambridge: Cambridge University Press, pp.382–416.

大石高典・近藤祉秋・池田光穂（2019） 「序章 犬革命宣言—犬から人類史をみる」, 大石高典・近藤祉秋・池田光穂編『犬からみた人類史』（勉誠出版）, pp.4–22.

大石高典（2019） 「カメルーンのバカ・ピグミーにおける犬をめぐる社会関係とトレーニング」, 大石高典・近藤祉秋・池田光穂編『犬からみた人類史』（勉誠出版）, pp.170–197.

石田慎一郎・橋本栄莉・佐川徹・大石高典・松本尚之（2019） 「序章—民族誌を読む、アフリカで学ぶ」, 松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉編『アフリカで学ぶ文化人類学—民族誌がひらく世界』（昭和堂）, pp.1–14.

大石高典（2019） 「第1章 環境と生業—変動する自然を生きる」松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉編『アフリカで学ぶ文化人類学—民族誌がひらく世界』（昭和堂）, pp.15–36.

大石高典（2020） 「はじめに：『犬からみた人類史』書評特集」, 『クアドランテ[四分儀]—地域・文化・位置のための総合雑誌』第22号.

大石高典（2020） 「(書評へのリプライ) 犬からみた『人類史』と『个体史』」, 『クアドランテ[四分儀]—地域・文化・位置のための総合雑誌』第22号.

Oishi, Takanori and E.F. Fongzossie (2020). “A preliminary report on the diversity of forest landscape recognition among the Baka hunter-gatherers of Eastern Cameroon”. In *ASC-TUFS Working Papers 2019: Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa*. Eds. Y. Matsunami and S. Takeuchi, Tokyo:

African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp.247–258.

Funwi, Forbi Preasious, D.J. Sonwa, W.A. Malab, T. Oishi, M.T. Ngansopab, and M. Mbolob (2020). “Exploring farmers’ vulnerability and agrobiodiversity in perspective of adaptation in Southern Cameroon”. In *ASC–TUFS Working Papers 2019: Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa*. Eds. Y. Matsunami and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp.259–278.

Mvetumbo, Moïse, T. Oishi, P.K. Awaha, M.T. Ngansopc, and L.T. Akeptad (2020). “The persistence of spleen sickness culture in Cameroon: A comparison between a remote village in the Eastern Region and an urban area of the Central Region”. In *ASC–TUFS Working Papers 2019: Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa*. Eds. Y. Matsunami and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center – Tokyo University of Foreign Studies, pp.279–302.

Sakai, Makiko (2020). “Characteristics of Bike taxis in African rural society – A case study of Dschang, West Cameroon –”. Discussion Paper, Fondation France-Japon de l'EHESS (査読中)

武内進一 (2019) 「日本の国際政治学におけるアフリカ」, 日本国際政治学会 制度整備・自己点検タスクフォース報告書『日本の国際政治学—日本国際政治学会における研究の系譜と特徴』(第6章).

Takeuchi, Shinichi (2019). “Land and power in contemporary Africa: Understanding drastic rural changes in the age of land reform”. *Institute of Japan Studies Review VI: Re-examining Global Capitalism from the Perspective of Afro-Japanese Relations: Land, Space and Modernity*: 25–43.

武内進一 (2019) 「現代アフリカにおける土地と権力—土地法改革と急激な農村変容」, 『日本—アフリカ関係を通じたグローバル資本主義の批判的検討：土地、空間、近代性 (東京外国語大学国際日本学研究報告 VI)』, pp.44–48.

武内進一 (2019) 「紛争後のルワンダに見る和解の可能性と課題—ガチャチャを中心に」, 日本心理学会監修・大淵憲一編『紛争と和解を考える—集団の心理と行動』(誠信書房), pp.195–220.

武内進一 (2019) 「アフリカ人移民の背景にあるもの—農村社会の変容と国家建設」, 伊豫谷登士翁・テッサ・モーリス＝スズキ・吉原直樹編『応答する<移動と場所>—21世紀の社会を読み解く』(ハーベスト社), pp.213–234.

c) エッセイ、その他

Demachi, Kazue (2019) “Reviews of the consolidation of the financial system for policy implementation in Lao PDR”. *Final Report of Working Group 3* (Submitted to JICA).

深澤秀夫 (2019) 「マダガスカルのことわざいろいろ 23」, 『マダガスカル研究懇談会会報 SERASERA』第41号 (マダガスカル研究懇談会), pp.28–29.

深澤秀夫 (2019) 「日本で作ろう！マダガスカル料理 36 Akio」, 『マダガスカル研究懇談会会報 SERASERA』第41号 (マダガスカル研究懇談会), pp.29–30.

- 深澤秀夫(2020) 「マダガスカルのことわざいろいろ 24」,『マダガスカル研究懇談会会報 SERASERA』第42号(マダガスカル研究懇談会), pp.14-15.
- 深澤秀夫(2020) 「日本で作ろう!マダガスカル料理 37 Henan-kisoa sy Pomme de Terre」,『マダガスカル研究懇談会会報 SERASERA』第42号(マダガスカル研究懇談会), pp.16-17.
- 井上直美(2019) 「技術でアフリカの社会課題解決に貢献する一どのように現地ニーズに応じて技術を最適なものに変化させるか」,『アジア研ポリシー・ブリーフ』127号(アジア経済研究所).
- 山田美和・井上直美(2019) 「「グローバル市場で求められる『責任あるサプライチェーン』とは?—世界の日系企業800社アンケートから読み解くギャップとリスク—」,報告書(アジア経済研究所).
- 井上直美(2020) 「小農民をマーケットにつなぐICTイノベーション—ウガンダとケニアの事例から」,『アジア研ポリシー・ブリーフ』131号(アジア経済研究所).
- 井上直美(2020) 「デジタル経済から労働者が得るものとは?(ウガンダ)」,『IDE スクエア コラム 新興国発イノベーション第2回』(アジア経済研究所).
- 石川博樹(2019) 「祈りにつながるイスラーム」,『FIELDPLUS』第22号(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所), pp.2-11.
- 桐越仁美(2019) 「サバンナのジェンダー:西アフリカ農村経済の民族誌」,『おすすめアフリカ本』(特定非営利活動法人アフリック・アフリカ).
- 松波康男(2019) 「祈りにつながるイスラーム:ヤア住民による参詣者の歓待」,『FIELD PLUS』第22号(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所), pp.8-9.
- 松波康男(2019) コラム「民族誌映画:フィールドで映画を作ること/見せること」,松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本絵莉編『アフリカで学ぶ文化人類学』(昭和堂), pp.262-263.
- 松波康男(2019) 「政変とフィールドワーク—東アフリカの事例から考える安全確保」,澤柿教伸・野中健一・椎野若菜編『フィールドワークの安全対策(FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ9)』(古今書店), pp.152-161.
- 武内進一・松波康男(2020) DVD 監修『アデ・アデピタンとめぐるアフリカ最前線』全4巻(丸善出版).
- 大石高典(2019) 「河童のアフリカ研究(16):一から辞書を作る」,俳句雑誌『氷室』2019年4月号(氷室発行所), pp.2.
- 大石高典(2019) 「河童のアフリカ研究(17): 「ドンゴ村との出会い」」,俳句雑誌『氷室』2019年5月号(氷室発行所), pp.2.
- 大石高典・池田光穂・近藤祉秋(2019) 「『犬からみた人類史』グロッサリー(オンラインコンテンツ)」(勉誠出版), pp.2-24.
- 大石高典(2019) 「河童のアフリカ研究(18):『白人』でも「黒人」でもない日本人」,俳句雑誌『氷室』2019年6月号(氷室発行所), pp.2.

- 大石高典 (2019) 「いかに遊ぶか」, 『Humans of TUFS』インタビュー記事 (オンライン記事) (Humans of TUFS).
- 大石高典 (2019) 「河童のアフリカ研究 (19): 異人問答」, 俳句雑誌『氷室』2019年7月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2019) (書評)『『人喰い』カール・ホフマン(著)、奥野克巳(監修・解説)、古屋美登里(訳)』, 雑誌『Pen』No.477 (7月15日号) (CCCメディアハウス), p.111.
- 大石高典 (2019) 「河童のアフリカ研究 (20): 熱帯林伐採と住民」, 俳句雑誌『氷室』2019年8月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2019) 「河童のアフリカ研究 (21): チャーリーとの出会い」, 俳句雑誌『氷室』2019年9月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2019) 「河童のアフリカ研究 (22): ガーナでのエリート教育」, 俳句雑誌『氷室』2019年10月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2019) 「河童のアフリカ研究 (23): ガーナからナイジェリアへ」, 俳句雑誌『氷室』2019年11月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2019) 「雑草になった皇帝ボカサー—南米原産のヒマワリヒヨドリと中部アフリカ近現代史」, 『ビオストーリー』32号 (生き物文化誌学会), pp.67-71.
- 大石高典 (2019) 「河童のアフリカ研究 (24): 第二回黒人芸術祭 (Festac'77)」, 俳句雑誌『氷室』2019年12月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2020) 「モンダレボ」(2019年度作品コンクール入選俳句 15句), 俳句雑誌『氷室』28(1) (氷室発行所), p.18.
- 大石高典 (2020) 「河童のアフリカ研究 (25): コフィという名前」, 俳句雑誌『氷室』2020年1月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2020) 「河童のアフリカ研究 (26): ムルンドゥへ」, 俳句雑誌『氷室』2020年2月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2020) 「河童のアフリカ研究 (27): 甘過ぎるネスカフェの謎」, 俳句雑誌『氷室』2020年3月号 (氷室発行所), pp.2.
- 大石高典 (2020) 「生活史理論」「適応デザイン」「スキーマ理論」「文化伝達のメカニズム」「リバーサイド・ストーリーズ」, ボニー・ヒューレット著、服部志帆・大石高典・戸田美佳子訳『アフリカの森の女たち—文化・進化・発達の人類学』(春風社).
- 大石高典 (印刷中) (書評)『『最期の言葉の村へ—消滅危機言語タヤップを話す人々との30年』ドン・クリック(著)、上京恵(訳)』, 雑誌『Pen』3月15日号 (CCCメディアハウス).
- 大石高典 (印刷中) 「強害雑草がつくる景観の民族誌: 中部アフリカにおけるヒマワリヒヨドリの事例」, 『熱帯農業研究』13(Extra Issue 1) (日本熱帯農業学会).

- 坂井真紀子 (2019) (書評)「鍋島孝子著『激動のアフリカ農民-農村の変容から見える国際政治』(明石書店、2018年)」、『アフリカ研究』No.96(日本アフリカ学会), pp.13-15.
- 坂井真紀子 (2019) 「カメルーンの味を訪ねて」、『Vesta』No.116(味の素 食の文化センター), pp.12-13.
- 椎野若菜・澤柿教伸 (2019) 「イントロダクション」、『フィールドワークの安全対策(FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ9)』(古今書店).
- 武内進一 (2019) 「『コンゴ裁判』が照らし出す真実」、『劇場文化:コンゴ裁判~演劇だから語り得た真実』(SPAC 静岡県舞台芸術センター).
- 武内進一 (2019) 「第8回 なぜアフリカでは紛争が多いんですか?」、『IDE スクエア (コラム おしえて! 知りたい! 途上国と社会)』(アジア経済研究所), 2019年6月19日配信, pp.1-3.
- 武内進一 (2019) 「『ルワンダの奇跡』後の課題」、『外交』Vol.56 (Jul./Aug.2019) (外務省), pp.50-55.
- 武内進一 (2019) (書評)「Chris Huggins, *Agricultural Reform in Rwanda: Authoritarianism, Markets and Zones of Governance*. London: Zed Books, 2017, x+261pp.」、『アジア経済』60(1) (アジア経済研究所), pp.79-82.
- 武内進一 (2019) (資料紹介)「アミナッタ・フォルナ著 澤良世訳『シエラレオネの真実—父の物語、私の物語』」、『アフリカレポート』57 (アジア経済研究所), pp.54.

d) 学会・シンポジウム・研究会等での報告

- 出町一恵 指定討論: 討論論文 “The effects of International Capital Flows on Domestic Savings, Investment and Growth” (立命館大学 大田英明), 第78回国際経済学会, 2019年9月28日 (アジア経済研究所).
- 出町一恵 指定討論: 討論論文「カンボジア商業銀行の市場競争度: 2007-2017年期の Boon 指標の計測」(一橋大学 奥田英信), 2019年日本金融学会 秋季大会, 2019年10月19日 (甲南大学).
- Demachi, Kazue “Finance-led growth in Africa: Booms and missing links”. *PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development*. February 18, 2020, Protestant Institute of Arts and Social Sciences, Rwanda.
- 井上直美 「イノベーションと社会課題解決」, 2019年アジア経済研究所夏期公開講座 (東京) コース8 「インクルーシブビジネスと開発」, 2019年8月8日 (日本貿易振興機構).
- 井上直美 「開発に貢献するイノベーションとは」, 国際開発学会 開発とビジネス研究部会, 2019年8月8日 (東京).
- 荻谷康太 「ソコト・カリフ国のカリフについて」, 「イスラーム国家の王権と正統性」研究会, 2020年2月1日 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).
- 荻谷康太 (ポスター発表) 「初期ソコト・カリフ国における知と暴力: ジハードと奴隷制を支える思想の研究」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所全所プロジェクト「アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築」2019年度ポスター展示, 2019年11月23~24日 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).

- Oyama, S., H. Kirikoshi, and I. Mammam “From Soil Erosion to Soil Accumulation: Recycling Urban Organic Waste to the Eroded Land in Sahel, West Africa”. *Global Symposium on Soil Erosion*. May 16, 2019, Food and Agriculture Organization of the United Nations, Rome, Italy.
- 桐越仁美 「西アフリカ商人と域外商人の接続—現代ガーナにおける商人のキャリア形成を事例に」、日本アフリカ学会第 56 回学術大会, 2019 年 5 月 19 日 (京都精華大学).
- Matsunami, Yasuo “Healing ritual or cause of suffering: Spirit possession in rural Ethiopia”. *TUFS Special Seminar “Comtemporary spirit(ual) Cults: Revival or Continuity? - An Interdisciplinary Workshop”*. January 23, 2020, Tokyo University of Foreign Studies, Japan.
- 中川裕 「カラハリ狩猟採集民の言語におけるユニークな音象徴」, 日本アフリカ学会第 56 回学術大会, 2019 年 5 月 19 日 (京都精華大学).
- Nakagawa, Hiroshi “History of tonal interaction across paradigms: new findings from Khoisan tonology”. *International Conference on Historical Linguistics (ICHL24)*. July 3, 2019, The Australian National University, Australia.
- Nakagawa, Hiroshi “Khoisan phonological typology database and the relative frequencies of consonants in the Khoisan languages”. *13th Conference of the Association for Linguistic Typology (ALT2019)*. September 5, 2019, University of Pavia, Italy.
- Nakayama, Yumi “The Refugee-development Nexus: The Global Refugee Regime Crisis and African Experience”. *PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development*. February 18, 2020, Protestant Institute of Arts and Social Sciences, Rwanda.
- 大石高典 「犬との関わりからみたアフリカ社会: カメルーン東南部の狩猟採集民と農耕民の比較から」, 日本アフリカ学会第 56 回学術大会, 2019 年 5 月 18 日 (京都精華大学).
- 大石高典 (招待講演) 「フィールドを共にすること、フィールドワークを分かち合うこと—アフリカでの異分野との共同研究実践から考える」, 神田外語大学イベロアメリカ言語学科主催ワークショップ『共同研究のすすめ—異なる地域/分野の研究者たちによる協働の実践と課題』, 2019 年 7 月 21 日 (神田外語大学).
- 飯塚宜子・園田浩司・田中文菜・大石高典 「人類学の知を子どもと共有するために—狩猟採集民バカ・ピグミーに学ぶワークショップを通して」, 日本環境教育学会・第 30 回年次大会, 2019 年 8 月 25 日 (山梨).
- 大石高典・近藤祉秋・池田光穂 「評者コメントへの応答」, 書評会『犬からみた人類史』(大石高典・近藤祉秋・池田光穂編, 勉誠出版, 2019 年), 2019 年 10 月 1 日 (東京外国語大学海外事情研究所).
- Oishi, Takanori “Introduction”. *Global Landscape Forum digital summit “Land Tenure Reform in Africa and its Implication to Landscape Restoration on the Continent”*. October 9, 2019, Webinar in the side event of Global Landscape Forum held in Accra, Ghana.
- 島田将喜・大石高典・田暁潔・錢琨 「クロストーク: アフリカ、そして世界で描かれた顔と身体たち〜

タンザニア、カメルーン、ケニア、フィンランド、タイ、日本～」, TUFS アフリカンウィークス 2019 連携多言語ワークショップ『顔を描く、顔を描かれる、顔を知る』, 2019 年 12 月 6 日 (東京外国語大学).

高橋康介・島田将喜・大石高典・錢琨・田暁潔 「身体の中の顔—フィールド実験から見えてきた顔身体認識・表現の多様性」, 第 4 回公開シンポジウム『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築』, 2019 年 12 月 7 日 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).

大石高典 「カメルーンにおける描画フィールド実験」, 2019 年度フィールドネットラウンジ『学際的なフィールドワークから「描画」を考える』, 2019 年 12 月 8 日 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所).

大石高典 (ポスター発表) 「人間・動物・人工物・精霊——カメルーンの狩猟採集民、農耕民、都市住民における描画表現の多様性」, 科研費新学術領域研究『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築』第 5 回領域会議, 2019 年 12 月 22 日 (沖縄県市町村自治会館).

Oishi, Takanori “Comments”. *TUFS Special Seminar “Comtemporary spirit(ual) Cults: Revival or Continuity? - An Interdisciplinary Workshop”*. January 23, 2020, Tokyo University of Foreign Studies, Japan.

Oishi, Takanori “Impact of Cocoa Mono-cultivation on Micro-scale Land Use Change in a Rural Community of Eastern Cameroon”. *PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development*. February 19, 2020, Protestant Institute of Arts and Social Sciences, Rwanda.

椎野若菜 「東アフリカにおける月経観と月経にかんする教育事情：ケニアとウガンダの事例から」, 日本文化人類学会第 53 回研究大会 分科会「グローバル化時代に月経はどう観られるのか—ケガレ・禁忌・羞恥心」(分科会代表者・杉田 映理), 2019 年 6 月 2 日 (東北大学).

Shiino, Wakana “The Maid-Elite Women Nexus: Strategies and Survival in Kenya and Uganda”. *Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES)*. August 30, 2019, Adam Mickiewicz University, Poland.

Shinagawa, Daisuke, Y. Abe, and S. Lee “Collaborating to document linguistic diversity in African contexts”. *IYIL 2019 Perspectives Conference*. 2019. October 31, Purdue University Port Wayne, USA.

Shinagawa, Daisuke “*-ag and related TAM forms in Chaga: Habitual, Future, and Focus marking?”. *Workshop “Bantu day: Discussions on Linguistic Features from the Bantu are”*. November 29, 2019, University of Mainz, Germany.

Shinagawa, Daisuke “How Sheng has been manipulated and recognized in society: focusing on the dynamism before and after 2007”. *International workshop “Sociolinguistic perspectives on variation in Swahili –New approaches to the study of language and its social context in East Africa*. December 5, 2019, University of Mainz, Germany.

Takeuchi, Shinichi “Comments for two keynote speech (Prof. Scarlett Cornelissen, Prof. Kweku Ampiah)”. *Japan Society for Afrasian Studies (JSAS) Academic Conference 2019*. July 27, 2019, University of Tokyo, Japan.

武内進一 「コメント」, 日本国際政治学会分科会 B-4 ジェンダー「武力紛争後社会の変容とジェンダー」, 2019年10月18日 (朱鷺メッセ).

Takeuchi, Shinichi “Rwanda’s land law reform: Its implications for the landscape change”: *Global Landscape Forum digital summit “Land Tenure Reform in Africa and its Implication to Landscape Restoration on the Continent”*. October 9, 2019, Webinar in the side event of Global Landscape Forum held in Accra, Ghana.

武内進一 「コメント」, 国際開発学会&人間の安全保障学会 2019 共催大会 セッション D3 農業, 2019年11月17日 (東京大学).

Takeuchi, Shinichi “Consequences of the land tenure reform: The case of Rwanda”. *94th KUASS/12th KU-TUFS Seminar “Consequences of land tenure reform in Africa”*. November 19, 2019, Kyoto University, Japan.

e) 一般向け講演

井上直美 「デジタルエコノミーが実現する包括的で持続可能なビジネスのイノベーションとは？—ウガンダの事例から考える—」, 第42回ASCセミナー, 2019年10月31日 (東京外国語大学).

松波康男 「エチオピア西部のイスラーム：聖者信仰とその実践」, FIELDPLUS café トークイベント, 2019年7月19日 (6次元).

松波康男 「政変とフィールドワーク：大使館員としてフィールドワーカーとして」, FENICS イベント「フィールドワークのための経験からまなぶ安全対策」, 2019年12月7日 (武蔵野公会堂).

中山裕美 「世界の難民問題と日本の課題」, 第14回市民聴講生の集い, 2019年10月3日 (東京外国語大学).

大石高典 「社会から学ぶ：中部アフリカ・カメルーンの森の暮らし—現代における熱帯雨林の文化・生活」, 特定非営利活動法人アースマンシップ主催『全体を学ぶ学校』2019年度春コース講演, 2019年4月30日 (山梨県北杜市).

大石高典・藪田慎司 (招待講演)「犬から見た人との共生、犬の動物行動学」, わんダフルネイチャーヴィレッジ特別講座, 2019年6月1日 (東京サマーランド).

二神浩晃・野中健一・大石高典・藤元敬二 「FENICS サロン：水流ランナー、人類学、フォトグラフィー」, 2019年6月9日 (東京学芸大こども未来研究所 Codolabo studio).

大石高典・近藤祉秋・池田光穂 (座談会)「私たちはなぜ犬が好きなのか?」, 『犬からみた人類史』出版記念イベント, 2019年6月26日 (八重洲ブックセンター本店).

大石高典・園田浩司・田中文菜・矢野原佑史 「トリップ1：ゾウのいる森で遊ぶぞう！（カメルーンのバカ・ピグミー）」, 小学生向けワークショップ「京都で世界を旅しよう！2019 地球たんけんたい ⑧」, 2019年11月16日 (京都大学東南アジア地域研究研究所).

大石高典 「第1回：人と犬の関係史～犬の誕生と人類史」「第2回：犬からみた近代史～共存と共生のゆくえ」, 北区立中央公園文化センター 特別講座「狗類学入門～犬から学ぶ歴史、犬と考える未来～」, 2020年2月1、8日 (北区立中央公園文化センター).

- 大石高典（司会・企画運営）「熊楠をもっと知ろう！」，シリーズ第47回講演会：『#犬からみた人類史：紀州編－熊楠日記から読み解く犬の近現代史』，2020年3月21日（南方熊楠顕彰館）。
- 坂井真紀子「特別研修報告－パリとカメルーンで考えたこと」，「がんばろう、日本！」国民協議会 第205回東京・戸田代表を囲む会，2020年1月10日（「がんばろう、日本！」国民協議会事務所）。
- 品川大輔「キリマンジャロ（東アフリカ）をめぐる」，講演会「未知の言語を探る旅～アフリカ・アジアからアキバのメイド喫茶まで!？」，2019年12月5日（慶應義塾大学言語文化研究所）。
- 武内進一「SDG16の実現に向けたアフリカ諸国への日本の開発協力」，SDG16+研究会，2019年4月10日（JICA 研究所）。
- 武内進一「アジア・アフリカの新しい関係をどうみるか」，立川市生涯学習推進センター主催多文化共生・国際理解講座，2019年6月10日（柴崎学習館）。
- 武内進一「なぜ SDG11 が問題なのか－アフリカから考える」，西東京国立三大学 高校生グローバルスクール，2019年7月26日、8月3日（東京外国語大学）

f) 企画・運営・事務局等

- 武内進一・出町一恵・石川博樹・荻谷康太・桐越仁美・松波康男・中川裕・中山裕美・大石高典・坂井真紀子・品川大輔・椎野若菜（実行委員）日本アフリカ学会第57回学術大会，2020年5月23～24日，東京外国語大学。
- 深澤秀夫（編集主任），マダガスカル研究懇談会。
- 井上直美（企画・運営），国際開発学会 開発とビジネス研究部会「パームオイルセミナー」，2019年9月17日，聖心女子大学。
- 大石高典（企画・展示）『犬からみた人類史』写真展，2019年6月10～21日，東京外国語大学。
- 大石高典（企画・展示）『アフリカで描かれた顔と身体たち』絵画展，2019年12月3～20日，東京外国語大学。
- 椎野若菜（企画・運営）FENICS サロン@アフリカ学会 京都精華大学「フィールドワーカーの研究と育児：院生・PDの場合」，2019年5月18日，京都精華大学。
- 椎野若菜（企画・運営）FENICS サロン@東北大「フィールドワ-カ-とライフイベント:子連れフィールドワーク」，2019年6月1日，東北大学。
- 椎野若菜（企画・運営）FENICS イベント「フィールドワークのための経験からまなぶ安全対策」，2019年12月7日（武蔵野公会堂）。
- 椎野若菜（企画・運営）S 科研「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究（松田素二代表）ジェンダー・セクシュアリティ班第13回公開研究会，2019年2月16日，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

5.2 教育活動

a) 本学内における今年度担当授業

教員名	学部/研究科	授業科目	授業題目	学期
Amanor, Kojo Sebastian	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-7)	Development in Africa	秋
Amanor, Kojo Sebastian	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	Sustainable Development and Global Governance in a Multipolar World - with special reference to governance in Africa	秋
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)	経済思想を読む	春
出町一恵	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-5)	世界経済グローバル化の歴史	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論 B	国際金融論	秋
出町一恵	国際社会学部	経済学 B	世界各国・地域の最新経済事情 ^{*1}	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 A	国際経済学 I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 B	国際経済学 II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 A (専門演習)	国際経済論 (専門演習) I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 B (専門演習)	国際経済論 (専門演習) II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 A	国際経済論 (卒論演習) I	春
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 B	国際経済論 (卒論演習) II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文	授業題目 (和文) 国際経済論 (卒業論文)	通年
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 3	国際経済研究 I	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 4	国際経済研究 II	秋
深澤秀夫	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 1 / 文化人類学	David Graeber の著作を通して考える価値論	春
深澤秀夫	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 2 / 文化人類学	婚姻から見た構造と行為 あるいはブルデュー入門と再考	秋
Hampwaye, Godfrey	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-2)	Regional Planning and Development	春
Hampwaye, Godfrey	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	Planning for Sustainable Regional Development	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 1	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2	アフリカ歴史文化論	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アフリカ歴史文化論	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アフリカ歴史文化論	アフリカ歴史文化論	秋
苺谷康太	国際社会学部	アフリカ地域研究 A	イスラームとアフリカ	春
苺谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 1	西アフリカ・アラビア語文献講読	春
苺谷康太	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2	西アフリカ・アラビア語文献講読	秋
松波康男	国際社会学部	アフリカ地域研究 B	アフリカの宗教: 妖術、巡礼、精霊憑依	秋
箕浦信勝・大谷直輝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	世界のことば B	マダガスカル語	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語研究入門 3 / 言語研究入門 A	言語の研究入門	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語研究入門 4 / 言語研究入門 B	言語の研究入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論 A	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論 B	言語学概論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学 A	形態論	春

教員名	学部／研究科	授業科目	授業題目	学期
箕浦信勝	言語文化学部	言語学 B	統語論入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学 A(専門演習)	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学 B(専門演習)	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学特殊研究 A	「語」とは何か？再考	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習 A	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習 B	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究 1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究 2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	言語学修論演習	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	言語学修論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学 1 / 言語基礎論	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学 2 / 言語基礎論	言語記述研究	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論 A	音韻論入門	春
中川裕	言語文化学部	音声学概論 B	音韻論入門	秋
中川裕	言語文化学部	音声学 A(専門演習)	音声資料分析実習	春
中川裕	言語文化学部	音声学 B(専門演習)	音韻資料分析実習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 A	音声学・音韻論卒論演習	春
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 B	音声学・音韻論卒論演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業論文	論文作成法とプレゼンテーション	通年
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究 1	音韻論研究入門	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究 2	音声学・音韻論セミナー	秋
中川裕	総合国際学研究科	総合国際学研究基礎	言語文化研究基礎	春
中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文：音声学・音韻論	春
中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文：音声学・音韻論	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学 1 / 言語基礎論	音声学と音韻論	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学 2 / 言語基礎論	音声学・音韻論セミナー	秋
中山裕美	国際社会学部	政治学入門 3 / 国際関係論入門 B	国際政治学入門	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治概論 A	国際政治概論 A	春
中山裕美	国際社会学部	国際関係論 B	国際関係の中の地域主義	秋
中山裕美	国際社会学部	国際関係論 A	国際人口移動と国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際関係論 A(専門演習)	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際関係論 B(専門演習)	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習 A	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	卒業論文演習 B	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業論文	国際協調	通年
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究 1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究 2	国際協調	秋
大石高典	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-1)	アフリカ地域研究のための英語 1	春
大石高典	世界教養プログラム	地域言語 A(英語II-6)	アフリカ地域研究のための英語 II	秋
大石高典	世界教養プログラム	地域基礎 2A(アフリカ1) / アフリカ地域基礎 3	アフリカ地域研究入門 I	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 A	アフリカ地域研究への生態学的アプローチ I	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 B	アフリカ地域研究への生態学的アプローチ II	秋
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 A(専門演習)	フィールド人類学・地域研究	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究 B(専門演習)	フィールド人類学・地域研究 II	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒論ゼミ Part 1	春
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 B	卒論ゼミ Part 2	秋

教員名	学部／研究科	授業科目	授業題目	学期
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	生態人類学の理論と方法 I	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	生態人類学の理論と方法 II	秋
坂井真紀子・大石高典	世界教養プログラム	地域言語 A(英語I-9)／地域言語 A(英語I)／専攻言語 (英語 I -9)	African studies through English II ^{*2}	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域言語 B(アフリカ関連語 8)／教養外国語(フランス語 B4)	フランス語で見るアフリカ II	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	地域基礎 2A(アフリカ 2)／アフリカ地域基礎 1	アフリカ地域研究入門 2	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 B	業題目 (和文) アフリカと開発 (B)	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 B(専門演習)	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 A	卒業論文演習 II	春
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 B	卒業論文演習 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	仏語圏アフリカ地域研究 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	アフリカ地域研究ゼミ (2)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 2 /アフリカ政治経済論	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	秋
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(アフリカ諸語 1)／諸地域言語 (スワヒリ語 1)	スワヒリ語中級 1	春
品川大輔	世界教養プログラム	地域言語 C(アフリカ諸語 2)／諸地域言語 (スワヒリ語 2)	スワヒリ語中級 2	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究 2	形態統語論基礎演習	秋
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士研究：記述言語学	春
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士研究：記述言語学	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	Contemporary African politics	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	Contemporary African politics	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 1	IDEAS lectures on international development (1) ^{*3}	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 2	IDEAS lectures on international development (2) ^{*3}	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 3	IDEAS lectures on international development (3) ^{*3}	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 4	IDEAS lectures on international development (4) ^{*3}	秋
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文指導	春
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文指導	秋
中山智香子・武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究基礎 B	Foundations of Sustainability Research B	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー I	Interdisciplinary Seminar I	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー I	Interdisciplinary Seminar I	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー II	Interdisciplinary Seminar II	秋
中山智香子・武内進一	総合国際学研究科	サステナビリティ研究先端演習 I	Sustainability Research Advanced Practicum I	秋

教員名	学部／研究科	授業科目	授業題目	学期
中山智香子・武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 II	Sustainability Research Advanced Practicum II	秋
Teshome Emana Soboka	国際社会学部	アフリカ地域研究 B	Indigenous Knowledge System	秋
Teshome Emana Soboka	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	Ethnography of Africa	秋

*1...JETRO 海外調査部が担当する日本貿易振興機構<JETRO>連携講座

*2...南部アフリカ開発共同体(SADC)12 か国の在京大使によるリレー講義

*3...日本貿易振興機構アジア経済研究所(千葉市)で開講されるアイデアスの授業(2.5 参照)

b) 本学以外における非常勤講師活動

教員名	機関名	学部等	科目名	学期
井上直美	筑波大学		地球規模課題へのアプローチ【社会・国際学群「学群グローバル科目群」】	2019.10.28
井上直美	アジア経済研究所	IDEAS フォローアップ研修	ビジネスと人権	2020.3.10～11
石川博樹	放送大学	東京渋谷学習センター	面接授業	春
石川博樹	青山学院大学	文学部	東洋史特講	春
石川博樹	青山学院大学	文学部	東洋史特講	秋
石川博樹	慶應義塾大学	商学部	歴史 II	秋
苅谷康太	東京大学	文学部人文学科イスラム学専修課程	イスラム史概説	春
苅谷康太	放送大学	東京渋谷学習センター	移動と交流から見るアフリカ史	集中 (2019.6.8～9)
桐越仁美	関東学院大学	経済学部	地理学 A	春
松波康男	慶應義塾大学	文学部	開発と人類学	春
松波康男	南山大学	人文学部	現代の文化人類学	夏季集中
松波康男	駒澤大学	法学部	アフリカ政治論	後期
松波康男	慶應義塾大学	商学部	地域文化論 II (アフリカ)*1	後期
中川裕	東京言語研究所	理論言語学講座	音声学の基礎知識と実践的技能	後期
大石高典	慶應義塾大学	商学部	地域文化論 II (アフリカ)*1	後期
椎野若菜	上智大学	総合グローバル学部	特講 (アフリカの家族と親族)	秋
椎野若菜	桐朋女子高等学校		ケニアにおける「妻相続」慣習の言説とフィールドで見る現実のはざま	2019.10.29
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語 (公開講座)	通年
武内進一	学習院女子大学	国際文化学部	国際文化交流演習 XIII (ルワンダ研修)	2019.11.29

*1...リレー講義。担当は各3コマずつ

5.3 対外活動、社会貢献

a) 外部機関からの委託業務

各センター員が外部機関より委託されて行っている業務は以下のとおりである。

教員名	機関名	役職名	期間	内容/備考
出町一恵	国際協力機構	調査団員	2018.1.9～2020.3.31	ラオス国における財政・マクロ経済分析に係る調査(Working Group3)
井上直美	ILO 駐日事務所	リサーチコンサルタント	2019.6.1～現在	ILO/EU/OECD パートナーシップ-責任あるサプライチェーンプロジェクト (Responsible Supply Chains in Asia - Japan) のリサーチコンサルタントとして、日本企業の日本と海外における取り組み現状の調査、レポート執筆及び啓蒙活動に従事する
井上直美	国際開発学会	開発とビジネス研究部会幹事	2018.9～現在	研究部会幹事としてセミナーや研究会の企画、実施をする
井上直美	アジア経済研究所	外部研究委員	2019.4.1～2020.3.31	デジタル経済研究会、外部研究委員として、研究会での発表等の活動を行う
石川博樹	日本アフリカ学会	関東支部運営幹事		関東支部の活動運営に参加する
桐越仁美	参議院	客員調査員	2018.6.18～2020.3.31	参議院 ODA 派遣議員団が ODA 給与相手国を訪問・視察するために行なう準備業務に対し、業務補助および助言をする
名井良三	毎日新聞社	第2次審査員	2019.7.13	TICAD7 パートナー事業「アフリカと日本のユース提言」(8月26日於・早稲田大学)の応募者に対する毎日新聞社での事前選考会審査
名井良三	外務省	参与	2019.8.27～2019.8.31	TICAD7 アフリカ代表の成田・羽田空港接遇
中川裕	World Congress of African Linguistics	Steering committee member	2019～2028	国際アフリカ言語学会議の評議会への参加(オンライン会議を含む)。
大石高典	日本アフリカ学会	関東支部運営幹事	2017.6～現在	関東支部の活動運営に参加する
大石高典	日本熱帯生態学会	庶務幹事	2018.4～現在	日本アフリカ学会との連携を担当
大石高典	帝京科学大学	附属フィールドミュージアム外部評価委員会・委員	2018.7～2020.3.31	フィールドミュージアムの運営について助言をおこなう
大石高典	IUFRO	Scientific Committee member, the African Forest policies and politics conference (AFORPOLIS).	2018.9～現在	アフリカの森林に関する人文社会科学の科学委員
大石高典	生物多様性及び生態系	野生種の持続的利用	2019.1～現在	政府間パネルの専門家としてアセスメントに参加し、報告書を執筆する

教員名	機関名	役職名	期間	内容/備考
	サービスに関する政府 間科学-政策プラット フォーム(IPBES)	に関する評価報告書 第一章主執筆者		
大石高典	日本文化人類学会	次世代育成セミナー 担当委員	2019.4~2020.3	次世代育成セミナーの運営に参加する
大石高典	生き物文化誌学会	評議員	2019.7~	学会運営に参加
坂井真紀子	緑のサヘル	理事	2014~現在	理事会構成メンバー
椎野若菜	日本アフリカ学会	評議員	2017~現在	
椎野若菜	日本文化人類学会	評議員	2018~現在	
椎野若菜	日本ナイル=エチオピ ア学会	評議員	2010~現在	
椎野若菜	比較家族史学会	理事	2011~現在	
椎野若菜	生態人類学会	理事	2009~現在	
武内進一	Springer	Editorial Board,	2019.2.5~	Evidence-Based Approaches to Peace and Conflict Studies Series シリーズ書籍の編集 委員
武内進一	日本アフリカ学会	理事	2017.4.1~2020.3.31	渉外担当
武内進一	地域研究学会連絡協議 会	事務局長	2017.12.10~2019.12.14	
武内進一	日本比較政治学会	研究奨励賞選考委員	2017.4.1~	
武内進一	日本学会議	連携委員	2017.10.1~2020.9.30	地域研究基盤強化分科会副委員長
武内進一	政策研究大学院大学	博士論文審査委員	2019.6~2019.8	Gamel Mathew Abotiyane Aganah, "State-society collaboration in peacebuilding in Northern Ghana."

b) マスメディアからの取材、問い合わせへの対応

このほか、近年はマスメディアでアフリカ各国が取り上げられることも増えたため、テレビ制作会社や新聞社などからの取材、問い合わせも昨年度以降、急増している。アフリカ各地域の現地語翻訳業務への協力や裏取り調査への協力、基礎情報の提供など、可能なかぎりに対応している。

対応者名	媒体ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考
大石高典	雑誌	週刊現代	「チョコちゃんに叱られてしまうかも…！あなたにこの問題	2019年11月16日号(11月8日)

対応者名	媒体ジャンル	媒体名・番組名等	対応内容	備考
			が解けますか：普段から裸の民族にも『露出狂』の人はいるの？」へのコメント	発売) p.155
椎野若菜	テレビ	フジテレビ「関ジャニクロニクル」	番組台本の監修	
品川大輔	絵本	『ハートのレオナ』(Misha 著、大宮エリーイラスト)	巻末のアフリカ諸国紹介の監修	
武内進一	新聞	Japan Times	TICAD VII に関する取材への協力	2019年8月29日紙面掲載
武内進一	新聞	毎日新聞	ルワンダの和解に関する取材への協力	2019年9月7日(土)夕刊紙面掲載
武内進一	新聞	朝日中高生新聞	コンゴに関する事実確認取材への協力	2019年9月8日(日)紙面掲載
武内進一	ラジオ	TBS ラジオ	解説「ルワンダの虐殺から25年。ジェノサイドはなぜ起きたのか？」	2019年4月10日放送「荻上チキ・Session-22」
武内進一	ラジオ	J-Wave	TICAD VII に関する解説	2019年8月28日放送「J-Wave Jam the World」
武内進一	メディア	BBC Africa	TICAD7 の意味	2019年8月29日スカイプ取材

5.4 外部資金の獲得

a) 代表者

代表者名	資金名	資金提供元	期間
出町一恵	科学研究費 若手研究「天然資源依存経済におけるマクロ経済と産業の推移に関する分析」(18K18248)	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1~2021.3.31
深澤秀夫	科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「インド洋西域島嶼社会における包摂・接合・分離をめぐる共和制と多元問題の共同研究」(19KK0021)	文部科学省・日本学術振興会	2019.10.7~2025.3.31
深澤秀夫	科学研究費 基盤(C)「マダガスカルにおける損失の回復をめぐる観念の歴史的過程と共時的生成の統合的研究」(18K01167)	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1~2021.3.31

代表者名	資金名	資金提供元	期間
荻谷康太	科学研究費 基盤 (C)「初期ソコト・カリフ国における知と暴力：ジハードと奴隷制を支える思想の研究」(19K01030)	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1～2023.3.31
桐越仁美	科研費 若手研究「西アフリカにおけるイスラーム系移民の危機回避に関する人類学的研究」(19K20517)	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1～2023.3.31
松波康男	科学研究費 若手研究「苦悩に対処する社会装置としての儀礼に関する人類学的研究：エチオピアの事例から」(18K12592)	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2022.3.31
中川裕	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」(18KK0006)	文部科学省・日本学術振興会	2018.10.9～2023.3.31
中川裕	科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「音韻獲得の言語相対論の新展開：クリック子音獲得の事例研究」(18K18500)	文部科学省・日本学術振興会	2018.6.29～2021.3.31
大石高典	アサヒグループ学術振興財団 生活文化部門「現代日本における獣肉食文化の文化人類学的研究」	アサヒグループ学術振興財団	2019.4.1～2020.6.30
坂井真紀子	科学研究費 基盤 (C)「カメルーンにおける定期市ネットワークの社会学的研究」(18K11806)	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2022.3.31
椎野若菜	科学研究費 基盤 (C)「東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの「同居家族」の研究」(17K02002)	文部科学省・日本学術振興会	2017.4.1～2020.3.31
品川大輔	科学研究費 基盤 (C)「バントゥ諸語に見られる類型間連動関係の研究」(19K00568)	文部科学省・日本学術振興会	2019.4.1～2022.3.31
品川大輔	研究拠点形成事業：B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「アフリカにおける言語多様性とダイナミズムに迫るアフリカ諸語研究ネットワークの構築」	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2020.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(B)「アフリカにおける紛争の性格変化の基層－暴力噴出メカニズムの解明に向けて」(16KT0046)	文部科学省・日本学術振興会	2016.7.19～2020.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究(B)「アフリカ農村部における資源管理と政治権力」(18H03439) *学内分担者は桐越仁美、松波康男、大石高典、坂井真紀子	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1～2021.3.31

代表者名	資金名	資金提供元	期間
武内進一	科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「アフリカの農村資源管理と国家－ガーナとルワンダの比較研究」(19KK0031) * 学内分担者は桐越仁美	文部科学省・日本学術振興会	2019.10.7～2023.3.31

b) 分担金

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
石川博樹	科学研究費 基盤 (B)「アフリカ食文化研究の新展開：食料主権論のために」(18H03441)	文部科学省・日本学術振興会	藤本武 (富山大学)	2018.4.1～2022.3.31
中川裕	科学研究費 基盤 (A)「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける景観形成の自然誌」(16H02726)	文部科学省・日本学術振興会	高田明 (京都大学)	2016.4.1～2021.3.31
中川裕	科学研究費 基盤 (B)「研究職を離れた言語研究者が保持する言語データの適正再資源化のための基盤確立研究」(18H00661)	文部科学省・日本学術振興会	加藤重広 (北海道大学)	2018.4.1～2022.3.31
中川裕	科学研究費 基盤 (B)「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」(19H01264)	文部科学省・日本学術振興会	松本曜 (人間文化研究機構国立国語研究所)	2019.4.1～2023.3.31
中山裕美	科学研究費 新学術領域研究「国家と制度：固定化された関係性」(16H06547)	文部科学省・日本学術振興会	松永泰行 (東京外国語大学)	2016.6.30～2021.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤 (A)「国際制度の衰微と再生の政治経済分析」(18H03623)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木基史 (京都大学)	2018.4.1～2020.3.31
大石高典	科学研究費 基盤 (A)「コンゴ盆地における水陸ネットワークと社会生態環境の再編」(16H02716)	文部科学省・日本学術振興会	木村大治 (京都大学)	2016.4.1～2020.3.31
大石高典	科学研究費 基盤 (B)「焼畑の在来知を活かした日本の食・森・地域の再生：地域特性に応じた生業モデルの構築」(16H03321)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治 (京都先端科学大学)	2016.4.1～2021.3.31
大石高典	科学研究費 基盤 (C)「持続可能性を基軸とした異生態系比較による「地域の知」モジュール化と公教育への応用」(17K02013)	文部科学省・日本学術振興会	飯塚宜子 (京都大学)	2017.4.1～2020.3.31

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
大石高典	科学研究費 新学術領域研究「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築—多文化をつなぐ顔と身体表現」・計画研究 A01-P02「顔と身体表現の多文化比較フィールド実験研究」(17H06342)	文部科学省・日本学術振興会	高橋康介 (中京大学)	2017.6.30～2022.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤 (B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来の技術革新史」への視角」(18H00776)	文部科学省・日本学術振興会	杉山祐子 (弘前大学)	2018.4.1～2022.3.31
椎野若菜・ 品川大輔・ 武内進一	科学研究費 基盤 (S)『「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究」(16H06318)	文部科学省・日本学術振興会	松田素二 (京都大学)	2016.5.31～2021.3.31
椎野若菜	科学研究費 基盤 (B)「グローバルなアジェンダとなった月経のローカルな状況の比較研究」(17H04539)	文部科学省・日本学術振興会	杉田映理 (大阪大学)	2017.4.1～2020.3.31
椎野若菜	科学研究費 挑戦的萌芽研究「ケニア都市部における人々の移動史と居住環境に関する民族誌デジタルアーカイブ研究」(16K13128)	文部科学省・日本学術振興会	野口靖 (東京工芸大学)	2016.4.1～2020.3.31
椎野若菜	科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「ケニアのスラムにおける映像民族誌及びデジタルアーカイブのメディアアートの拡張」(19K21670)	文部科学省・日本学術振興会	野口靖 (東京工芸大学)	2019.6.28～2022.3.31
武内進一	科学研究費 基盤 (A)「民主主義体制における少数派排除のグローバル化—アジア・アフリカの比較研究」(18H03624)	文部科学省・日本学術振興会	中溝和弥 (京都大学)	2018.4.1～2022.3.31
武内進一	科学研究費 基盤 (A)「持続的な平和と開発のためのガバナンス：ネットワーク科学とデータ科学を用いた研究」(18H03621)	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人 (東京大学)	2018.4.1～2022.3.31